

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校(全日制)

学校番号(40)

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	自らを信じ 自らを鍛え 夢の実現を
-------------	---	-------------	-------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自 己 実 現	わかる授業の実践	<p>主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善に努める。また、実施した授業を評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立によって、授業の質的向上を図り、授業アンケートにおいて生徒の授業満足度※90%以上を目指す。さらに、授業でのICTの活用を推進し、新たな学びの研究を進める。</p> <p>A: 100~85% B: 84~70% C: 69~50% D: 49~40% E: 40%未満</p> <p>※授業満足度は以下の方法で算出する。 (授業アンケート全体の平均点÷満点4点)×100=満足度%</p>	A	<p>授業アンケートの結果、1学期末と2学期末比較すると、「課題の提出」に関する項目を除きポイントが上昇している。昨年同時期(2学期末)と比べると全ての項目においてポイントは上昇しており、全体の数値平均を4で割った値は、86.4%となり、授業満足度の値としては昨年度の85%を上回りこれまで一番高い評価となっている。なかでも評価の在り方については平均値が4段階中3.6を超えており、授業満足度を押し上げている。一方、生徒自身の取組に対する自己評価はやや低い傾向が見られるが、それでも昨年同時期の比較では上昇しており、主観的な判断で厳しく自己評価をしているとも考えられる。</p> <p>※授業アンケート全体の平均3.456点÷満点4.0</p>	<p>授業担当者への生徒評価は「4のそう思う」の割合が高く評価されている。授業改善への取組が少しずつ成果を上げていると受け取れる。今後とも授業改善の実践を進めながら、さらにわかる授業を推進していくことが求められる。学習時間を確保し、学力の定着が図れるよう、充実したICT環境を活用しながら生徒の学習満足度が高められるよう取組を続けたい。オンラインでの学習支援を進めながら、引き続き、主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善を図っていききたい。</p>
		<p>研修・研究授業に年間5回以上参加することを通して自己研修の充実を図る。校内授業の相互観察等を活用し、「深い学び」の実践に向けた取組を推進する。また、校内研究授業や授業研究会の計画及び実施を通して、授業力の向上を図る。</p> <p>A: 5回以上 B: 4回 C: 3回 D: 2回 E: 1回以下</p>	A	<p>現職教育の計画に基づき、初任者校内研究授業(2回)、県立学校基礎研修対象者の先生方の研究授業(4回)を実施した。ICT活用授業改善推進事業の公開授業(9・11月)実施の際には、授業改善推進担当係と連携して、教科横断型授業を計画・実施した。(オンラインでの開催)</p> <p>研修・研究授業参加については、平均年間5回であった。</p>	<p>来年度も引き続き、県立学校基礎研修対象者の先生方を中心に校内研究授業を計画・実施していききたい。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ICT活用授業改善推進事業の公開授業は、オンライン開催となった。また、校外における研修参加の機会は減少したが、オンラインでの参加形態は増加傾向にある。研修の在り方を見直ししながら、進めていきたい。</p>
	学習習慣の確立	<p>教科間で連携し設定した適度な課題に取り組みせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。キャリアパスポートを活用した自己の学校生活に対する振り返りや担任による個別面談の充実により、進路意識を醸成し、学習時間の増加につなげる。</p> <p>A: 3.0時間以上 B: 2.9~2.5時間 C: 2.5~2.0時間 D: 1.5~1.0時間 E: 1.0時間未満</p>	C	<p>1学期の調査では、理数科・普通科の家庭学習時間の総平均は184分、商業科は97分であった。商業科生徒については、検定等取得に向けて更に学習量増加を図りたい。なお、適切な課題の設定に当たっては、教科による偏りがないうグループウェアである「チームズ」を生徒用の端末で活用してに教科担当者が相互にチェックできる環境づくりに取り組んだ。</p>	<p>2学期の調査では、理数科・普通科の家庭学習時間の総平均は190分、商業科は102分であった。特に、3年商業科の学習時間の減少が顕著であり、検定等取得に向けての学習だけでなく、受験に向けた早めの小論文対策も意識させていきたい。</p>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自己実現	理数教育の充実	<p>科学的探究能力の育成を図るとともに、科学系コンテスト等において課題研究の受賞数20件以上、また、地域貢献の意識高揚を図るために、地域サイエンス事業のイベント等への参加数 500名以上を目指す。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応を考慮し、イベント等の実施の可否を検討するとともに、<u>科学系コンテストへの積極的な参加や地域サイエンス事業の充実のためにオンラインの活用を進めていく。</u></p> <p>(科学系コンテスト) A : 20件以上 B : 16~19件 C : 12~15件 D : 8~11件 E : 7件以下</p> <p>(地域イベント参加) A : 500名以上 B : 400~499名 C : 300~399名 D : 200~299名 E : 199名以下</p>	C	<p>科学系コンテスト等への参加・応募・出品数64件のうち、受賞作品数は11件であり、今後も目標数の達成に向けて取り組むとともに、課題研究の質を高めていくよう努めたい。地域サイエンス事業としては「宇東SSH科学の祭典」を12月に開催することができた。地域サイエンス事業に関する小規模なイベントを含めると、参加人数は300名を超えた。課題研究や地域サイエンス事業、海外研修や関東研修について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けても、オンライン等を効果的に活用し、充実した取組として実践することを目指したい。</p>	<p>次年度は、科学系コンテスト等における受賞数を増やせるよう「RSⅠ」「RSⅡ」等で取り組む課題研究、科学系部活動で取り組む課題研究を、ともに充実させる。オンラインを活用した発表会等にも積極的に参加するよう促す。地域サイエンス事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けても「宇東SSH科学の祭典」をうまく開催できるよう工夫したい。オンライン開催の有効性に着目し、計画的に準備を進めていく。SSH事業全般について、地域への情報発信に注力する。以上のことにも取り組み、理数教育の更なる充実に努めたい。</p>
	産業教育の充実	<p>キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、<u>ビジネスに必要な豊かな人間性を育成する。</u>資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。</p> <p>A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満</p>	D	<p>6月実施の検定試験では2年生の簿記検定(原価計算)合格者は33名から44名と増加した。2学期以降の検定試験の合格者数は前年度から大きく増えることはなかったが、前年度と比較すると資格取得への意欲は高くなっている。希望する進路を実現するためには資格取得の成果は大きく影響することを自覚させ、毎日の授業に前向きに取り組む姿勢を育てたい。</p>	<p>今年度、一部の検定試験直前にコロナ感染症拡大防止の対応による休校期間があったが、その対策は十分とはいえなかった。次年度に向けて、オンラインでの指導法を研究し、生徒の学力向上に少しでもつながるよう努めたい。また、生徒の学力に応じて、各学年で目標とする受験級を適切に設定することで、生徒の学習意欲を高めていきたい。</p>
	希望進路実現	<p>望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を十分に把握した上で、<u>企業情報の提供及び就職指導を実践し、早期に採用内定率100%(一次試験の合格率90%以上)を達成する。</u></p> <p>A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満</p>	B	<p>企業情報の提供を、個別面談や保護者面談などを通して行った。学校幹旋による就職は、新型コロナウイルス感染症の影響が心配されたが、支障もなく11月末までには就職内定率100%を達成することができた。また、公務員希望者においても4名が合格することができた。</p>	<p>就職先の希望業種や職種、事業所など、具体的な希望先の決定が遅いので、早い段階での決定ができるように資料を工夫したい。引き続き、担任や教科と連携した進路指導に努めるとともに迅速かつ適切な進路情報を提供していきたい。</p>
	希望進路実現	<p>「思考力・判断力・表現力」を問う入試問題の研究に努めるとともに、<u>一般入試に向けた学力錬成とともに、総合型選抜・学校推薦型選抜の研究を通して、教員の進路指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数 110名以上を達成する。</u></p> <p>A : 110名以上 B : 100~109名 C : 90~99名 D : 80~89名 E : 79名以下</p>	B	<p>3年生の進学指導においては、総合型選抜・学校推薦型選抜に向け学年と進学課が連携を深められるよう会議による共通理解や担任相互の話し合いの機会を持っている。進学指導委員会も適宜実施することで、過年度の進学データや今年度の進路希望の動向を確認・共有することができた。夏季休業中には、通常補習に加え、3年生を対象に夏季学力UPゼミを2日間実施するなど、希望進路実現に向けての指導を行った。更に今年度は新たに、総合型推薦・学校推薦型選抜について意見を出し合う検討会を実施した。</p>	<p>共通テスト後の2次対策補習や個別指導を例年以上に徹底的に行い、3月10日時点(前期試験合格発表時点)で、国公立大学は87名が合格した。しかし、秋の推薦入試では、合格率が例年以上に低かったため、進学課としての取組を見直し、改善策を検討している。来年度は、8月中旬に推薦入試検討会を実施し、受験校の精選、校内締め切りの前倒し、小論文および面接指導の早期開始を実現する。</p>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
心身健康で豊かな心	基本的な生活習慣の定着	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止に細心の注意を払いながら、気持ちの良い挨拶や衛生面でのエチケット、清潔感のある身だしなみの実践 100%を達成する。また、交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故0を達成する。</p> <p>A：100～90% B：89～75% C：74～60% D：59～50% E：50%未満</p>	C	<p>気持ちの良い挨拶ができていて、ほぼできているという生徒が78%を超えている。また、端正な身だしなみについても88%の生徒ができていて、ほぼできていると答えており、身だしなみ指導の合格率とほぼ同等の数値になっている。しかし、交通事故は6件（自転車との接触、自動車との接触など）が発生しており、昨年より増加した。（昨年は3件）自転車通学生指導なども行い、交通マナーを指導してきたが、更なる対策の必要性を感じている。</p>	<p>コロナ禍で、体育館等での集会などの全体指導ができにくい分、校門付近での挨拶の指導や見守り、校外巡視などを増やしていく。昨年12月に行った宇和島警察署による下校指導も有効であったので、次年度も連携して交通安全意識の高揚に努めたい。また、昨年から実施した校内での自転車押し歩きと校内に乗り入れる自動車の徐行運転についても、引き続き啓発に努めていきたい。</p>
		<p>生徒の健康と安全に留意し、学校全体で長期欠席や不登校への早期対応、新型コロナ感染予防に取り組み、一か年の皆勤率60%以上を達成する。防災教育を通して、防災意識の高揚を図る。</p> <p>A：60%以上 B：59～50% C：49%～40% D：39%～30% E：30%未満</p>	B	<p>ワクチン接種や接種による副反応、コロナウイルス感染症に対する不安のため欠席する生徒が増加した。コロナ禍においては、今後も同様の理由で欠席生徒が増えることも考えられるが、長期欠席になりつつある生徒に対しては、学年間や教育相談課と連携しながらも適切に対応したい。防災避難訓練は、コロナ禍のため中止としが、次年度は、津島分校とも連携を図り、訓練を実施したい。</p>	<p>マスク着用や手指消毒の徹底はもとより、教室の換気、昼食時の「黙食」や清掃時に机や椅子の消毒などの感染予防対策を行っている。特に換気は、毎授業後、校内放送により使用教室の換気を促しており、予防意識の啓発にも役立っている。次年度も引き続き、感染予防に努めたい。</p>
	人権意識の高揚	<p>差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させ、保護者・地域との連携を強化する。 人権・同和教育研修会を充実させ、全教職員が共通の意識をもって取り組む。また、校内・校外の人権委員会活動の活性化を図る。さくら連絡網を活用して啓発活動を実施する。 人権侵害をなくす取組を10回以上実践する。</p> <p>A：10回以上 B：9～8回 C：7～6回 D：5～4回 E：3回以下</p>	A	<p>教職員を対象とした人権・同和教育研修会は（2回）、新型コロナウイルスの影響もあり、全て公開授業とはできなかったが、人権・同和教育ホームルーム活動や人権委員会学習会（3回）、人権委員会交流学習会（1回）、新聞記事のスクラップ集めを実施した。校内人権の日には人権日より「Hidamari」を発行（11回）、校内放送で人権について考えを深めた。また、さくら連絡網を活用し啓発活動（13回）を実施し、全教職員・生徒・保護者の人権意識の向上に努めた。</p>	<p>定期的に入権日より「Hidamari」を発行し、全校放送やさくら連絡網を活用して啓発活動を実施したことにより、生徒や保護者の感想・行動から人権意識が高まりが感じられた。校内での様々な人権・同和教育研修会を実施することで、教職員の人権意識や同和問題に取り組む姿勢にも変化が表れてきたように思われる。次年度もこの取組を継続し、生徒にとって居心地の良い学校の雰囲気作りに努めたい。</p>
	読書の勧め	<p>学年団の協力のもと、「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。「宇中文庫Day」を設けるなど、宇中文庫（集団読書用の新書）の貸出を各クラス年間2回以上とする。教科学習やホームルーム活動における図書館の利用を促すなど冊数一人10冊以上を達成する。</p> <p>A：10冊以上 B：9.9～8.0冊 C：7.9～6.0冊 D：5.9～3.0冊 E：2.9冊以下</p>	C	<p>1学期に「宇中文庫Day」（1回）と称して、朝の読書の時間を利用して、全校一斉に読書指導を行った。各クラスの宇中文庫の貸出を2回実施した。図書に関するアンケート（12/12現在）によると、読書冊数は全校平均7.2冊（昨年度6.7冊）であり、「朝の読書の時間は充実しているか」の項目では、94%が充実していると回答している。また、学校評価アンケートの「図書館を利用していますか、図書館には読みたい本がそろえられていますか」という項目も評価のポイントが増加していた。</p>	<p>年間読書冊数は2学期末の数値であるため、3学期末には、やや増加すると思われる。貸出冊数においては、宇中文庫の貸出がカウントされているため、全学年において2倍以上増加した。読書会（年2回）の企画・運営を図書委員が行う、図書委員作成の「図書館通信」（月1回）をSHRで紹介するなど、係生徒がより主体的に図書館利用や読書啓発にかかわれるように働きかけていきたい。</p>
ボランティア活動や地域イベントへの参加	<p>一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通じて、広く社会に貢献し、地域を愛する人材を育成する。</p>	B	<p>コロナ禍のため、ボランティア活動を行う機会が減少した。唯一、校外で実施できたポートルース大会においては「来た時よりも美しく」を合言葉に行事終了後の清掃活動を主体的に行うことができた。</p>	<p>コロナ禍新型コロナウイルス感染拡大のため、ボランティア活動を行う機会が減少した。校内ではあるが、生徒会主体のトイレクリーションは実施したが、たくさん生徒が協力してくれた。</p>	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	生徒の主体性を軸に、学校行事における協働的な取組を通してコミュニケーション力を高め、地域や学校を愛する豊かな心を育成するとともに生徒の学校行事満足度100%を達成する。 A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~60% E : 60%未満	B	昨年度はコロナ禍の影響により一部の学校行事が中止や延期となったが、今年度は、校内ポートルース大会を開催することができた。会場や競技方法、分校や定時制との交流実施など、以前の実施内容から大幅に変更はしたが、生徒たちの協働的な取組が見られ、有意義な学校行事にできた。	コロナ禍ではあるが、感染防止対策を取り、実施内容や方法を工夫しながら学校行事を行うことができた。この取組を通じて、今後の行事の在り方について、感染拡大前の内容や実施方法に拘らず、生徒の安全と安心を確保しながら新たな形式での行事を作り上げていく必要性を感じている。また、津島分校や定時制、地域との連携を模索しつつ、更に改善して良いものにしていきたい。
	部活動の活性化	「質の高い文武両道」を目指すなかで、生徒、教職員、保護者そして地域が連携を深め、より良い部活動運営を行い心・技・体の調和が取れた生徒を育成する。 四国大会に15部以上、全国大会には12部以上の出場を目指す。 (四国大会) A : 15部以上 B : 14~11部 C : 10~5部 D : 4~ 1部 E : 出場なし (全国大会) A : 12部以上 B : 11~10部 C : 9~5部 D : 4~ 1部 E : 出場なし	B	県総体には230名（水泳を除く）の生徒が出場した。そのうち、体操、柔道、少林寺、水泳、陸上競技、珠算・電卓部が四国、全国大会への出場を果たした。本校の目指す「質の高い文武両道」実践の成果であり、十分評価できる取組を日々行っている。	感染症対策が続く中、後期の部活動においてもボート部をはじめ、多くの部で活躍がみられた。対外的な活動では制限が多い中、各部で工夫した取り組みを行っている。この状況は今後も続く可能性があり、どのような状況においても部活動が円滑に行えるよう環境を整えていきたい。次年度の新入生からは、部活動において津島分校との連携も計画しており、生徒たちがスムーズに部活動を行えるように準備を進めたい。
業務改善	適切な勤務時間	校務支援システムの活用を推進し、教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。 <u>会議の精選等を行い、業務の効率化を推進する。</u> 月に1回の「リフレッシュデー」を設定し、定時退勤のための意識高揚を図る。	B	月1回設定されている「リフレッシュデー」では、毎回、朝礼時に定時退勤を呼びかけ、心身のリフレッシュに努めた。また、ゆとりをもって業務に専念できるように会議の精選等を行った。	コロナ禍ゆえに、テレワーク制度を活用する機会も多いと考えられる。今年度はこのような状況にありながらも、テレワークを利用する職員は数名と少なかった。次年度は10名程度に増やして、業務の効率化を図りたい。
	職場環境の整備	健康管理医による健康相談や健康講座を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。 <u>縦と横のコミュニケーションを密にして、メンタルヘルスケアの向上に努める。</u>	B	管理職からの声かけを意識的に行い、職員の体調確認や悩み相談等を行うことができた。また、毎月行われる衛生委員会では、職場環境の整備に関する情報共有や健康増進について話し合った。	疲労が蓄積する前に、休むときは休める雰囲気醸成したい。また、個々においても学校においても楽しいと思える時間を創出できるように工夫したい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。